

県内復興・経済日誌（2015年12月）

1日

《医療人材確保に向け協議会設立、福島県中地区の教育機関連携》

医療人材の確保や育成に向け、県中地区の医療福祉関連教育機関が連携し、教育環境の充実、発展を目指す「県中地区医療福祉関連教育施設連絡協議会」準備会の初会合が郡山市で開かれた。大学や専門学校などが協力し、医療に携わる学生の教育水準向上を図る。平成28年4月をめどに協議会設立を目指す。

2日

《全国植樹祭・南相馬市の式典会場、原町区雫地区に正式決定》

県と国土緑化推進機構は、平成30年春の第69回全国植樹祭の式典会場が、南相馬市原町区雫の海岸防災林に正式に決まったと発表した。県内では昭和45年に猪苗代町で開催されて以来48年ぶり。東日本大震災後、被災地での開催は初めて。同地区は交通の便が良く、高台にあるため海岸防災林の復旧状況を見渡せる立地条件が評価された。

《「豪華寝台列車」、会津若松市をルートに選定》

JR東日本は平成29年春に投入する豪華寝台列車「トランスイート四季島」の運行ルートの概要を発表した。本県からは、春から秋に甲信越などを巡る1泊2日コースの乗降車駅に会津若松駅が選ばれた。ほかに春から秋（4～11月）に北海道や東北を周遊する3泊4日コース、冬（12～3月）に2泊3日で主に東北をクルージングするコースを設けた。

3日

《指定廃棄物の受け入れ、県、富岡町、楡葉町了承》

国が国有化する方針の民間管理型処分場「フクシマエコテッククリーンセンター」（富岡町）で原発事故に伴う県内の指定廃棄物を最終処分する計画をめぐる、内堀知事と富岡町の宮本町

長、搬入路のある楡葉町の松本町長は計画を受け入れると表明した。避難指示解除とふるさと帰還に向け、指定廃棄物処理の加速が必要との認識で一致した。指定廃棄物がある12都県のうち、処分場受け入れは初めて。

《日本全薬工業、フランスの動物薬会社と合併》

動物用医薬品製造などを展開する日本全薬工業（ゼノアック：郡山市）と、フランスに本社を置く動物薬製造販売メーカーのベトキノールは、合併会社「ベトキノール・ゼノアック」を設立する契約を締結し、郡山市役所にて記者会見が行われた。設立は平成28年1月で、同社はベトキノールの動物用医薬品、サプリメント製品の日本市場に向けた登録申請作業をはじめマーケティング、販売を行う。

8日

《高湯温泉1位、じゃらんnet満足度ランキング秘湯部門》

リクルートライフスタイル（東京都）は、旅行専門雑誌「じゃらん」のインターネット版「じゃらんnet」の会員、利用者を対象にした人気温泉地満足度ランキング2016を発表、全国温泉地ランキングの秘湯部門で、高湯温泉（福島市）が初の1位、湯野上温泉（下郷町）が2位に選ばれた。5位にも表磐梯温泉（猪苗代町）が入った。ランキングは全国331の温泉地を対象で、各温泉地を訪問した1万2,062人から回答があった。

14日

《「磐梯山ジオパーク」再認定》

猪苗代、磐梯、北塩原の3町村にまたがり、日本ジオパークに認定されている「磐梯山ジオパーク」は、現地審査の結果、日本ジオパーク委員会から「日本ジオパーク」の再認定を受けた。ガイド養成や火山防災教育の充実、保全計画の推進、住民への普及など、初認定から4年

間の取り組みが評価された。今後は「世界ジオパーク」認定に向け、地形の独自の研究やグルメの開発などを進める。

16日

《国見町産米「天のつぶ」使用、新酒「国見あつかしさん」発売》

皇室に献上された国見町産の献穀米「天のつぶ」を使った純米吟醸の新酒「国見あつかしさん」が発売された。戦後、同町で姿を消した「地酒」が復活を果たした。平成28年度同町に開所する道の駅の特産品の目玉として期待される。

17日

《福島県立医科大学に小児集中治療室新設》

福島県立医科大学において平成28年度開設する「こども医療センター」に、県内初となる小児集中治療室（PICU）を新設する、と県は公表した。厚生労働省の認可を受け、小児専用の8床を整備する。急性疾患や不慮の事故で重症化した子どもを救うため、24時間体制で高度な専門医療と救命医療を提供する。平成29年中の稼働を目指す。

19日

《会津大学と福島ガイナックス、共同でアプリ開発へ》

会津大学と福島ガイナックスは19日から20日にかけて、三春町の「空想とアートのミュージアム福島さくら遊学舎」でアプリなどの開発合宿を行った。学生と事業に協賛する会津若松市内のIT企業の社員ら18人が参加した。会津大学のICT（情報通信技術）と福島ガイナックスのアニメキャラクターなどを融合した新商品の開発につなげようと初めて取り組んだ。

《福島空港国内線利用者1,000万人達成》

福島空港のチャーター便を含む国内線利用者数が1,000万人に到達した。平成5年3月の開港以来、22年9ヵ月で大台に達した。県と福島空港利用促進協議会は玉川村の福島空港ビルで記念セレモニーを行った。

24日

《福島市、災害時にドローン活用》

福島市は小型無人機（ドローン）の運用技術

を持つMTS & プランニング（同市）と災害時協定を結んだ。民間企業と自治体間での非常時のドローン活用に関する協定締結は全国2例目で、県内の市町村で初めてとなる。吾妻山の災害発生時などに活用が期待される。

25日

《東邦銀行「ペッパー」導入、案内や顧客対応》

東邦銀行は人型ロボット「Pepper」を導入し、1月から順次、本店営業部を含む4店舗に配置すると発表した。同行は今後、各種商品やキャンペーンの案内、アンケートなどに活用するほか配置店以外の店舗やイベントへの出張も予定している。

《中畑清さん、矢吹町「名誉町民」第1号》

矢吹町は、同町出身で元読売巨人軍内野手、前DeNA監督として活躍した中畑清さんに第1号の「名誉町民」の称号を贈った。顕彰式が町文化センターで行われ、称号記が本人に授与された。後援会員ら約50人が出席した。

《国勢調査速報値、県人口前回調査比11万人減少》

県が発表した国勢調査の速報値によると、2015年10月1日現在の県人口は191万3,606人で、2010年の前回調査に比べ11万5,458人（5.7%）減少した。減少幅は過去最大で、県人口は戦後最少。全域避難の町村のうち、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町の4町で人口がゼロとなった。

28日

《スポーツ用品製造・販売のドーム、いわき市に物流拠点完成》

世界的なスポーツ用品メーカー「アンダーアーマー」（米国）の商品を製造・販売するドーム（東京都）は、いわき市常磐上湯長谷町に物流センター「ドームいわきベース（DIB）」を完成させ、竣工式に当たる「DIBローンチセレモニー」が現地で行われた。DIBは東南アジアなどで生産・輸入した製品を集め、全国に発送する同社最大の物流拠点となる。建物は鉄筋コンクリート4階建て、倉庫棟延べ床面積は52,800平方メートル。